

WILDLIFE VIEW vol.6

ワイルドライフビュー 6号



CONTENTS

エッセイ	信頼の絆 (アジアゾウ)
Feature	のどかな海岸に、戦慄の水しぶきが上がる (シャチ)
File1	北の森に静寂の羽音が聞こえる (カラフトフクロウ)
Column	ヒョウ/チーター/オランウータン
File2	強さと優しさ、そして繊細さ (アジアゾウ)
File3	サンゴの林に踊る妖精 (タツノオトシゴ)
File4	血塗られた土ぼこりの中で (ハイエナ)
File5	幻想の島にリングテールは踊る (ワオキツネザル)



FEATURE のどかな海岸に戦慄の水しぶきが上がる

南米アルゼンチンのパタゴニア地方は、強風が荒れ狂い、今なお人の侵入すら頑なに許さない風の大地だ。その冷たい大西洋の氷海に突き出したバルデス半島では、夏の終わりから秋にかけての僅か 10 日ほどの間、海の巨神が地上に君臨する。彼らは、波打ち際でまどろむアシカの仲間のオタリアたちに白羽の矢を立てて無情なまでに追いつがり、海岸を血で染めながら氷海の中に骸を沈めてゆくのだ…。

Photo : ©Francois Gohier



FILE1 北の森に静寂の羽音が聞こえる

「巨大なる灰色のゴースト」「北国のゴースト」。様々な異名を持つカラフトフクロウは、古来より不気味な北の森の畏怖の象徴として、一目を置かれる存在であり続けた。漆黒の夜の森でさえも音もなく飛び回り、確実に獲物を殺戮する。森閑として森の中に不気味に響き渡る鳴声は、森に迷い込んだ人々の恐怖心を掻き立てるには、十分すぎる効果があったのだろう。

Photo : ©Daniel J.Cox



FILE5 幻想の島にリングテールは踊る

マダガスカル島の森の中。夜明けと共に丘の上に並んで、気持ち良さそうに朝陽を浴びているのは、ワオキツネザルの群れだ。マダガスカルに生息しているレムール（キツネザル）と呼ばれる原猿の仲間は、32 種類。その中でも、長い尾を優雅に揺らしながら闊歩する彼らは、この島を代表するキツネザルなのだ。しかし、平和そのものに見えるワオキツネザルも、今やこの島の南西部にある保護区と、その周辺の限られた森林地帯にしか生息していない。絶滅の足音は、日だまりで憩う彼らにも容赦なく迫っているのだ。

Photo : ©Anup Shah and Fiona Rogers